

外国人児童に対する初期日本語教育の文型

横田 淳子 小林 幸江 鈴木 孝恵
(1998.10.30 受)

1 はじめに

この10年余りの間に、中国からの帰国者やブラジル・ペルーから来日する日系人の数が急増した。これらに伴って、中国、ブラジル、ペルーその他の外国人児童生徒が日本の公立学校に就学する数も急激に増えた⁽¹⁾。外国人児童生徒に対する教育の現況を全般的に見ると、何もかも手探りの状態で無我夢中で外国人児童生徒に対処して来た初期の段階は過ぎ、よりよい教育をめざして教育の内容を細かく検討している段階に来ていると言える⁽²⁾。

外国人児童生徒が学校に入って来た時に、まず最初に必要となるのは受け入れに関する事務的なことと児童生徒の学校への適応指導であるが、これらに関しては、現在、先進校と言われる経験の長い学校を中心に、文部省、都道府県の教育委員会などで指導内容、方法、体制のマニュアルが体系的に整えられてきている⁽³⁾。中国語やポルトガル語、スペイン語の翻訳も整備されつつあり、日本語のできない保護者と意志疎通も最低限図れるように配慮されている。

しかし、適応指導に比べると、日本語指導に関してはまだ指導内容、方法、体制とも緒についたばかりの状態であると言える。国語教育の延長線上ではない外国人児童生徒のための日本語教育とは何か、初期の適応指導のための日本語指導と教科を学ぶための日本語指導とは異なるものなのかなどという根本的な問いに関しても、教育現場、研究者、教育行政間で十分に議論が行われていない。

子供たちの健全な認知発達のためには、日本語を学ぶと同時に教科学習もしていかなばならない。集中教育が可能な成人に対する日本語教育とこの点が基本的に異なる。そのため、外国人児童生徒に対する日本語教育は成人に対する教育よりも時間的余裕がなく、それだけ効率的かつ効果的な指導が求められていると言える。本稿では、小学校児童に対する日本語教育にしばってその内容を検討・整理し、より効果的・効率的な指導方法、体制を考えていく上での手立てとしたい。

2 文型調査

2-1 調査目的

文を作るには、明示的にせよ、暗示的にせよ、文を作る決まり（ここでは「文型」という）を習得する必要がある。言語教育の場合、学習者側にとっては、これらの決まりを意識的に学ぶ方法と、たくさんのインプットが与えられることにより、無意識的に決まりを体系化し内在化させる方法とがあるが、教師側は「文型」を明示的に教えるにせよ暗示的に教えるにせよ、自覚的に意識しつつ教えていかなければならない。したがって、場面中心の教科書やカリキュラムであっても日本語指導が目標のものであれば、「文型」が隠されているはずである。

子供たちに対する日本語教育で実際にどのような文型が指導項目になっているのかを調査し、初期の小学校用の指導文型項目一覧を作成することとする。

2-2 調査資料

調査資料としては、現在市販されている子供のための日本語教育用教科書を使った。教科書のうち日本語指導よりも適応指導に主眼があるものは調査対象からはずした。その結果、以下に示す7種の教科書を調査資料とした（表1）。

[表1] 調査資料

資料名	【 】内は資料中の略名	課数	時間(目安)	指導書	対象
にほんごをまなぼう【まなぼう】		33	100	有	国内の児童(主に小学高学年)
ひろこさんのたのしいにほんご1【ひろこさん】		50	200	有	国内の児童
やさしいにほんご入門【やさしい】		69		無	英語圏の5~6歳の子供
やさしいにほんご初級		19+教室用語+付録		無	英語圏の6~8歳の子供
たのしいこどものにほんご【たのしい】		37		無	英語圏の幼稚園や小学校の子供
HELLO JAPANESE【HELLO】		28	(1年間)	有	英語圏の子供
にほんご1 NIHON GO!【GO】		12	(1年間)	無	英語圏の子供(主に小学1~4年)
にほんごだいすき2【だいすき】		導入2+23+付録2		無	国内の児童

※【だいすき1】は言葉のみの指導であるため除く

以上の7種の教科書の中では、『まなぼう』は児童が遭遇するであろう場面を中心にそこでよく使われる日本語表現を取り上げている場面中心の教科書の代表、『ひろこさん』は文型中心の教科書の代表として位置づけられる。各教科書は子供のための初級の教科書ということでは共通性があるが、指導目標や指導時間は一様でない。このような多種の教科書をあえて取り上げたのは、場面中心の教科書であっても、使われている表現を文型という観点から見るとどんな文型に分類されるのかを知りたかったためである。表現をそのまま暗記させるだけでなく、他の場面でも使えるような応用力を養成するには、少なくとも教師側はその表現を構成している文型を把握しておくべきであろうと考えたからである。

2-3 調査方法

「文型」の基準として、『外国人児童生徒のための日本語指導第1分冊 カリキュラム・ガイドラインと評価』の「小学校高学年文型シラバス〈45区分210項目〉(以下、「シラバス」と略す)⁽⁴⁾を使うことにした。これは、初級の文法項目を1項目1つの形で提示した小学校用の文型一覧で、文型が網羅的に全部で210項目記載されている。

「シラバス」の各文型項目が2-2で述べた7種の教科書のどの課で取り上げられているかをチェックした。指導書がついている教科書では、指導書に提示されている文型を対象とした。また、指導書がない教科書では、本文にあたって分析し文型を拾い出した。

しかし、この「シラバス」はある程度指導順序も考慮して文型が配列されているため、同種の文型がいくつかに分かれていたり(例えば、受け身の文型は動詞の種類によって2つの項目に分かれている)、掛け離れていたり(条件の文型「～たら」と「～ば」は混同を避けるために離して提示してある)する。また、210項目にわたるために、7種の教科書の中で取り上げられている文型と照合するのは、非常に複雑な作業になることが分かった。このため、同種の文型はまとめるなどの作業を行い項目数を減らした。また、語彙的なもの(例えば、「これはいくらですか」、「この／その／あの」、「～ごと」、「～ずつ」)、動詞の辞書形やタ形など語形に関するものも除いた。以上のような調整を行い、基準として参照しやすい形に変更した結果、147の項目からなる文型一覧表が「基準文型」として作成された。

次に、この「基準文型」と7種の教科書の文型を照合した結果について述べる。

[表 2] 小学校用初期文型項目一覧

No.	文型（文法事項）	まなぼう	ひろこさん	やさしい	たのしい	HELLO	Σ	だいすき
1	NはNです	○	○	○	○	○	○	○
2	NはNですか	○	○	○	○	○	○	○
3	Vます	○	○	○	○	○	○	○
4	Vました	○	○	○	○	○	○	○
5	N〔場所〕へ/に〔移動〕	○	○	○	○	○	○	○
6	Nを〔動作の対象〕	○	○	○	○	○	○	○
7	Nが〔好悪・巧拙の対象〕	○	○	○	○	○	○	○
8	N〔時間〕に	○	○	○	○	○	○	○
9	N〔場所〕に（Nが）あります/います	○	○	○	○	○	○	○
10	NのN	○	○	○	○	○	○	○
11	Vましょう	○	○	○	○	○	○	○
12	NはIA です NはIAくないです	○	○	○	○	○	○	○
13	Vません	○	○	○	○	○	○	○
14	N〔場所〕で	○	○	○	○	○	○	○
15	N〔手段〕で	○	○	○	○	○	○	○
16	NとN	○	○	○	○	○	○	○
17	IAN〔名詞修飾〕	○	○	○	○	○	○	○
18	Vたいです	○	○	○	○	○	○	○
19	Vてください	○	○	○	○	○	○	○
20	Nをください	○	○	○	○	○	○	○
21	NはNがAです	○	○	○	○	○	○	○
22	Nと〔相手・対象〕	○	○	○	○	○	○	○
23	Nから〔起点〕	○	○	○	○	○	○	○
24	Nがほしいです	○	○	○	○	○	○	○
25	助数詞V	○	○	○	○	○	○	○
26	NはNではありません	○	○	○	○	○	○	○
27	IAかったです IAくなかったです	○	○	○	○	○	○	○
28	NAです NAではありません	○	○	○	○	○	○	○
29	N〔人〕に〔行為の対象〕	○	○	○	○	○	○	○
30	Nまで〔着点〕	○	○	○	○	○	○	○
31	Nも〔同種類〕	○	○	○	○	○	○	○
32	N〔場所〕へN/Vに行きます	○	○	○	○	○	○	○
33	NaN〔名詞修飾〕	○	○	○	○	○	○	○
34	N/Vること ができます	○	○	○	○	○	○	○
35	Nでした Nではありませんでした	○	○	○	○	○	○	○
36	Vませんでした	○	○	○	○	○	○	○

[表 2] 小学校用初期文型項目一覧

頻度	例文
7	[これは時計です わたしは3年生です]
7	[これは消しゴムですか]
7	[立ちます]
7	[立ちました]
7	[学校へ来ます 家に帰ります]
7	[テレビを見ます][部屋を出ます][道を歩きます]
7	[わたしは肉が好きです][兄はサッカーが上手です]
7	[6時にいきます][水曜日に行きます]
7	[学校にプールがあります][教室に先生がいます]
7	[ブラジルの切手 朝のあいさつ]
7	[立ちましょう]
6	[これは高いです 高くありません]
6	[立ちません]
6	[プールで泳ぎます]
6	[はさみで紙を切ります][飛行機で来ました]
6	[本と新聞]
6	[高い時計]
6	[友だちに会いたいです]
6	[本を読んでください]
6	[みかんをください]
5	[象は鼻が長いです]
5	[家族と(いっしょに)来ました][米と麦をまぜます]
5	[ブラジルから来ました][かばんから本を出します]
5	[わたしは自転車が欲しいです]
5	[本を一冊買います]
4	[これは切手ではありません]
4	[昨日は暑かったです 暑くありません]
4	[この部屋は静かです 静かではありません]
4	[友だちに手紙を書きます]
4	[8時から9時まで本を読みました][東京から大阪まで行きました]
4	[これもブラジルの切手です][わたしも食べます]
4	[公園へ遊びに行きます]
4	[静かな部屋]
4	[兄は英語ができます 兄は英語を話すことができます]
3	[昨日は晴れでした 晴れではありませんでした]
3	[立ちませんでした]

[表 2] 小学校用初期文型項目一覧

No.	文型 (文法事項)	まなぼう	ひろこさん	やさしい	たのしい	HELLO	OK	だいすき
37	N〔場所〕に	○	○	○				
38	N〔人〕から/に〔発信相手〕		○	○			○	
39	Vなさい	○	○	○				
40	Vています〔進行〕	○	○	○				
41	IA</NAに/Nに/Vように なります〔変化〕	○		○				○
42	IA</NAに V	○	○	○				
43	Vでもいいです	○	○					
44	Vてはいけません	○	○					
45	Vないてください	○	○					
46	NがV(ら)れます〔可能〕	○	○					
47	NとNとではどちらが～	○	○					
48	～とV〔引用〕	○		○				
49	N〔場所〕で N〔事柄・行事〕があります	○						
50	VN〔名詞修飾〕	○						
51	Vています〔結果の状態〕		○					
52	Vておきます	○						
53	Vてみます	○						
54	Vてしまいます	○						
55	VたりVたりします	○						
56	Vなければなりません	○						
57	Vなくてもいいです		○					
58	Vた/Vない ほうがいいです	○						
59	V/Vな〔命令〕	○						
60	IA</NAに/Nに します〔変化〕	○						
61	NはA味がします			○				
62	Nが 見えます/聞こえます	○						
63	Nのようです〔例示・比喩〕	○						
64	NのほうがNより～	○						
65	NはNと同じくらい～	○						
66	NではNが一番～		○					
67	～て/で～〔並列〕	○						
68	～から、～〔理由〕	○						
69	～ので、～〔理由〕	○						
70	～ように、～〔目的〕	○						
71	～たら、～〔条件・完了〕	○						
72	～なら(ば)、～〔条件〕	○						

[表 2] 小学校用初期文型項目一覧

頻度	例文
3	[部屋に入ります]
3	[先生から日本語を習います][友だちに本をもらいました]
3	[立ちなさい]
3	[雨が降っています]
3	[空が明るくなりました]
3	[速く歩きます 静かに歩きます]
2	[帰ってもいいです]
2	[家に帰ってはいけません]
2	[家に帰らないでください]
2	[兄は英語が話せます 兄はラジオが組み立てられます]
2	[ジュースと牛乳とではどちらが好きですか]
2	[「わかりません」と言いました]
1	[長野でオリンピックがありました]
1	[これは駅へ行くバスです これは外国から来た荷物です]
1	[ジュースが冷えています]
1	[ジュースを冷やしておきます]
1	[ジュースを飲んでみます]
1	[宿題を忘れてしまいました]
1	[歌ったり踊ったりします]
1	[病院へいかなければなりません]
1	[病院へ行かなくてもいいです]
1	[休んだほうがいいです][動かないほうがいいです]
1	[先生が「止まれ」と言いました]
1	[ラジオの音を大きくします]
1	[この花はいいにおいがします]
1	[ここから海が見えます][鳥の音が聞こえます]
1	[サッカーのようなおもしろいスポーツが好きです]
1	[兄はわたしより背が高いです]
1	[弟は兄と同じくらい背が高いです]
1	[日本では富士山が一番高いです]
1	[この公園は広くて、きれいです]
1	[暑いから、窓を開けましょう]
1	[かぜをひいたので、休みました]
1	[忘れないように、ノートに書きました]
1	[雨が降ったら、運動会は中止です]
1	[よく考えれば、わかります]

[表 2] 小学校用初期文型項目一覧

No.	文型 (文法事項)	まなぼう	ひろこさん	やさしい	たのしい	HELLO	GO	だいすき	頻度	例文
73	～ても、～ [逆接条件]	○							1	{あめが降っても、運動会をやります}
74	～とき、～	○							1	{夜、寝る時、パジャマを着ます}
75	Vてから、～	○							1	{歯をみがいてから、寝ます}
76	Nの/Vまえに、～	○							1	{寝る前に、歯をみがきます}
77	疑問詞か～ [不定]	○							1	{何か食べましたか} [だれか来ましたか]
78	疑問詞文か、～ [疑問詞文の入れ込み]	○							1	{いつ旅行に行くか、わかります}
79	～といます (命名)	○							1	{この花はバラといます}
80	Vこと (動詞の名詞化)	○							1	{停電というのは電気が止まることです}
81	～のです	○							1	{どうして休んだのですか かげをひいたのです}
82	～かもしれません	○							1	{明日は雨が降るかもしれません}

3 調査結果

「基準文型」のうち、7種の教科書のいずれにも取り上げられていない文型65項目を除いて頻度の高い順に並べ一覧表にしたものが、「小学校用初期文型項目一覧（以下、「文型項目一覧」と略す）」である（表2）。文型は全部で82項目になった。

まず、7種の教科書のいずれにも取り上げられていないために、「文型項目一覧」に含めなかった文型の主なものを分類すると以下のようになる。

文末表現

～ようです、～そうです、～はずです、～らしいです

後置詞を伴った表現

Nとして、Nによって

疑問詞や助数詞を使った全肯定や全否定の表現

だれでも、ひとつも、どのNも

複文

VたらVた、Vるまで、～のは～からです

書き言葉的な表現

～が（逆接）、～ために（目的）、～のではないかと思います、

Vること（命令）

使役、受け身、使役受け身表現

Vられる、Vさせる、Vさせられる

子供が自分から表現することは少ないと思われる表現

NでもVませんか、Vてほしいです

「文型項目一覧」の82の文型のうち、7種全部の教科書に取り上げられている頻度7の文型は11（表2のNo 1～11）あり、1種の教科書にしか取り上げられていない頻度1の文型は34（表2のNo49～82）あった。半分以上の教科書で取り上げられている頻度4以上の文型も34（表2のNo 1～34）あった。

7種全部の教科書に取り上げられている文型としては、名詞文の「NはNです」「NはNですか」がある。ただし、質問文は疑問詞を使ったもの「（これは）何ですか」に限定されて、答えとなる否定文の文型「NはNではありません」がない教科書や、名詞文の質問文の肯定や否定の答えとして「そうです」「ちがいます」だけを提示している教科書もある。動詞文の「Vます」「Vました」はど

の教科書にもあるが、肯定形があるからといってどの教科書にも否定形が提出されているわけではない。成人向けの文型中心の教科書との違いであろう。基本的な助詞である「へ（移動の方向）」、「を（対象）」、「が（好悪・巧拙の対象）」、「に（時間）」、「に（存在の場所）」、「NのN」は全部の教科書に提出されている。また、教師と子供がよく使う「Vましょう」が全部の教科書で扱われている。

教科書を個別に見ていくと、場面中心の『まなぼう』に出てくる表現を支える文型は多種にわたっていることが分かった。場面に即した表現には多くの文型が使われているのである。文型中心の『ひろこさん』は、指導時間200時間程度だが、複文や比較の文型が全く扱われていないことが分かった。

4 初期取り出し期間中の小学校用指導文型項目案一覧

初期の日本語教育のためには、児童を在籍学級から取り出して日本語学級などで日本語教育をすることが望ましいし、近年、そのような措置をする学校が増えてきている⁽⁵⁾。現場の教師を対象としたアンケート調査⁽⁶⁾によると、取り出しの期間は一般に3か月ぐらいで、1週間の取り出し時間は平均6時間（1授業時45分）だそうである。したがって、取り出し期間に行える日本語教育の時間は全部で50～60時間しかないことになる。

このような指導期間の時間的制限を考えると、指導項目とする文型は、児童の負担にならないようにコミュニケーション上最低限必要なものだけに押さえる必要がある。また、児童の母語を使って意味を細かく指導できないことを考慮して、意味がとらえにくいものも避けなければならない。その意味で、話者の気持ちや判断を込める文末表現の文型はこの段階では扱わず、事実をそのまま伝える形の単文が中心になる。ただし、理由、条件などいくつかの重要な機能をもつ文型は入れる必要があるだろう。

以上の点を考慮しつつ、調査結果を基に、小学校の初期日本語教育で指導すべき文型項目を指導順序と関係なくいくつかのカテゴリーに分類し、「初期取り出し期間中の小学校用指導文型項目案一覧（以下、「指導文型項目案」）」を作成した（表3）。

文型は、名詞文として4項目（表3のNo 1～4）、形容詞文として4項目（5～8）、動詞文として4項目（9～12）、次に動詞文を作る要素としての助詞を含んだ文型として16項目（13～28）、名詞を拡大する文型として4項目（29～32）、動詞を変化させたりして機能を表現している文型として17項目

【表3】初期取り出し期間中の小学校用指導文型項目案一覧

No.	文型 (文法事項)	例文	頻度※	小カリ
1	NはNです	[これは時計です わたしは3年生です]	7	○
2	NはNですか	[これは消しゴムですか]	7	○
3	NはNではありません	[これは切手ではありません]	4	○
4	Nでした Nではありませんでした	[昨日は晴れました 晴れではありませんでした]	3	
5	NはIA です NはIAくないです	[これは高いです 高くないです]	6	○
6	IAなりましたです IAくなかったです	[昨日は暑かったです 暑くありません]	4	
7	NAです NAではありません	[この部屋は静かです 静かではありません]	4	○
8	NはNがAです	[象は鼻が長いです]	5	○
9	Vます	[立ちます]	7	○
10	Vません	[立ちません]	6	○
11	Vました	[立ちました]	7	○
12	Vませんでした	[立ちませんでした]	3	
13	N (場所) へ/に [移動]	[学校へ来ます 家に帰ります]	7	○
14	Nを [動作の対象]	[テレビを見ます][部屋を出ます][道を歩きます]	7	○
15	Nが [好悪・巧拙の対象]	[わたしは肉が好きです][兄はサッカーが上手です]	7	○
16	N (場所) で	[プールで泳ぎます]	6	○
17	N (手段) で	[はさみで紙を切ります][飛行機で来ました]	6	○
18	N (時間) に	[6時にいきます][水曜日に行きます]	7	○
19	N (人) に [行為の対象]	[友だちに手紙を書きます]	4	○
20	N (場所) に	[部屋に入ります]	3	○
21	Nと [相手・対象]	[家族と (いっしょに) 来ました][米と麦を混ぜます]	5	○
22	Nから [起点]	[ブラジルから来ました][かばんから本を出します]	5	○
23	Nまで [着点]	[8時から9時まで本を読みます][東京から大阪まで行きました]	4	○
24	N (人) から/に [発信相手]	[先生から日本語を習います][友だちに本をもらいました]	3	○
25	Nも [同種類]	[これもブラジルの切手です][わたしも食べます]	4	
26	N (場所) へN/Vに行きます	[公園へ遊びに行きます]	7	○
27	N (場所) に (Nが) あります/います	[学校にプールがあります][教室に先生がいます]	7	○
28	N (場所) で N (事柄・行事) があります	[長野でオリンピックがあります]	1	○
29	NNのN	[ブラジルの切手 朝のあいさつ]	7	○

※ 7種の教科書【表2】に取り上げられている頻度

[表3] 初期取り出し期間中の小学校用指導文型項目案一覧

No.	文型 (文法事項)	例文	頻度※	小カリ
30	NとN	[本と新聞]	6	
31	I AN [名詞修飾]	[高い時計]	6	○
32	ナ AN [名詞修飾]	[静かな部屋]	4	
33	V ましう	[立ちましよう]	7	○
34	V たいです	[友だちに会いたいです]	6	○
35	V なさい	[立ちなさい]	3	
36	V てください	[本を読んでください]	6	○
37	V ています [進行]	[雨が降っています]	3	○
38	V てもいいです	[帰ってもいいです]	2	○
39	V てはいけません	[家に帰ってはいけません]	2	○
40	V ないでください	[家に帰らないでください]	2	○
41	N/V ことができます	[兄は英語を話すことができます]	4	○
42	NがV (ら) れます [可能]	[兄は英語が話せます 兄はラジオが組み立てられます]	2	
43	助数詞V	[本を一冊買います]	5	○
44	I A</NAに V	[速く歩きます 静かに歩きます]	3	
45	I A</NAに/Nに/Vように 変化 [変化]	[空が明るくなりました]	3	○
46	Nをください	[みかんをください]	6	○
47	Nがほしいです	[わたしは自転車が好きです]	5	
48	NではNが一番～	[日本では富士山が一番高いです]	1	○
49	NとNとではどちらが～	[ジュースと牛乳とではどちらが好きですか]	2	
50	～て/で～ [並列]	[この公園は広くて、きれいです]	1	
51	～から、～ [理由]	[暑いから、窓を開けましよう]	1	○
52	～たら、～ [条件・完了]	[雨が降ったら、運動会は中止です]	1	○
53	～とき、～	[夜、寝る時、パジャマを着ます]	1	○
54	V てから、～	[歯みがいてから、寝ます]	1	
55	Nの/Vまえに、～	[寝る前に、歯をみがきます]	1	○
56	～とV [引用]	[「わかりません」と言いました]	2	○
*	Vながら、～ [同時]	[おかしを食べながら、話をします]	0	○
*	Nの/Vたあとで、～	[食事をした後で、歯をみがきます]	0	○

※ 7種の教科書 [表2] に取り上げられている頻度

(33～49)、複文として7項目(50～56)の計56項目を抽出した。

最後に、横田・小林が、東京外国語大学の「外国人子女の日本語指導に関する調査研究」の一環として作成した「小学校用日本語指導カリキュラム・ガイドライン(以下、「小カリ」と略す)⁽⁷⁾を「指導文型項目案」と照合させてみた(表3)。「小カリ」は、外国人児童が来日直後に適応を図りながら日本語習得を目指すカリキュラムのガイドラインで22課からなり、60時間程度の取り出し期間中に行う日本語教育を念頭に作成されたものである。文型は全部で45項目あるが、そのうち43項目は「指導文型項目案」に含まれるものであった。「Vながら、～(同時)」と「Nの/Vたあとで、～」の2項目は「小カリ」だけに提出されていた。「指導文型項目案」にあり「文型項目一覧」でも頻度4以上であるのに「小カリ」にない文型としては、「IAかったです IA なくなかったです」、「Nも」、「NとN」、「ナAN」、「Nがほしいです」があった。

5 今後の課題

「基準文型」と7種の教科書の文型を照合させた結果、子供に対する言語教育の場合、ある場面でよく使われる語彙と言い回しが教授内容であって、結果として文型はいくつかの課に分散されている教科書が多いことがわかった。この場合、場面に密着した言い回しを提示することによって子供自身に文の作り方の決まりを体系化・内在化させるという方法をとることになると思うが、もし体系化・内在化の方法が指導されず、学習者に任されることになると、膨大なインプットが必要となってくるであろう。現実の取り出し期間中の日本語学級に許されている授業時間数を考えると、この方法は非効率的になる恐れが多分にある。

話し言葉である生活日本語は容易に身につくが、教科を学んで行くための学習日本語ができないということがよく指摘される。それは、学習日本語には教科に特有な語彙があったり、漢字が多いためだと判断されがちであるが、それだけではないのではないだろうか。文をつくる力が十分でないために、状況や場面を離れたところで使われる日本語が理解できないのではないだろうか。生活の場面で「話が通じる」のは、場面に即した簡単なコミュニケーションならわずかな単語を並べるだけでも状況や場面から意味が解釈できるからである。サバイバル的な日本語力を指して「生活日本語はできる」と判断し、「生活日本語はできるが学習日本語はできない」と言っている場合も多いように思われる。現実学習者がいる場面を離れた教科書の内容や教師の教科の説明がわかるようになるためには

日本語の文を作り解釈する力が不可欠である。

日本語教育は、生活場面でコミュニケーションができればいいというところから始まると思うが、生活日本語の段階からきちんと文を作っていく力を養成しなければならない。そのためには、サバイバル的な段階を過ぎてからは、場面に密着した雑多な日本語は在籍学級において友達や教師からインプットされるであろうから、日本語学級ではむしろそれらを整理する体系だった文型中心の日本語教育の方が効率的・効果的ではないだろうか。

今回の調査においては、それぞれの文型が各教科書のどの課に出ているかも調べたが、文型の提出順を含めた教授法までは詳しく分析することができなかった。今後この資料を基にさらに教授法にまで分析を深めて行かねばならないと考えている。

付記：本研究は平成10年度の科研費を得て行われた。なお、調査結果のデータ処理に関しては、石井誠氏、梅岡巳香氏の協力を得た。

注

- (1) 文部省では1991年から2年毎に全国の公立の小・中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒の調査を行っている。それによると、1991年には学校数1973校、児童生徒数5463人だったのが、最新の1997年には学校数5209校、児童生徒数17296人と確実に増えている。
- (2) 『外国人子女教育資料・教材総覧』参照。
- (3) 文部省の『ようこそ日本の学校へ』や東京都教育委員会の『たのしいがっこう』など。
- (4) 『外国人児童生徒のための日本語指導第1分冊 カリキュラム・ガイドラインと評価』pp.65-72.
- (5) 『同上書』pp.9-10.
- (6) 『外国人子女の日本語指導に関する調査研究《最終報告書》』pp.111-114.
- (7) 1996年から1998年にかけて東京外国語大学のプロジェクトとして「外国人子女の日本語指導に関する調査研究協力者会議」が設置され、実践的な調査研究が行われた。その成果が『外国人子の日本語指導に関する調査研究《最終報告書》』としてまとめられた。さらにこの『報告書』の主な内容は『外国人児童生徒のための日本語指導』として刊行された。

参考文献

- 江川真知子 (1997) 『にほんご1 NIHON GO!』日本語教育センター
外国人子女の日本語指導に関する調査研究協力者会議・東京外国語大学 (1998)
『外国人子女の日本語指導に関する調査研究《最終報告書》』
- 加州日本語学園協会 (1993) 『やさしいにほんご入門』成美堂
加州日本語学園協会 (1994) 『やさしいにほんご初級』成美堂
鈴木重幸／工藤真由美編 (1998) 『にほんごだいすき2』むぎ書房
- 関口明子 (1994) 「日本定住児童の日本語教育－インドシナ難民児童の多様な言
語背景と日本語習得－」『日本語教育』83号 pp.1-15
- 全国国語教育実践研究会編 (1998) 『実践国語研究別冊 日本語教室の実践と日
本語教育のあり方』NO.184明治図書
- チャレンジ日本委員会 外国人子女研究会編 (1998) 『外国人子女教育資料・教材
総覧』文部省教育助成局海外子女教育課
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター編 (1998) 『外国人児童生徒のための
日本語指導第1分冊 カリキュラム・ガイドラインと評価』ぎょうせい
- 根元牧／屋代瑛子 (1986) 『ひろこさんのたのしいにほんご1』凡人社
東中川かほる／町田純子 (1993) 『HELLO JAPANESE For Boys and Girls』
インターンシッププログラムス
- 東中川かほる／町田純子 (1993) 『子供達に教える日本語 TEACHING
JAPANESE TO BOYS AND GIRLS』インターンシッププログラムス
- 文部省 (1992) 『にほんごをまなぼう』ぎょうせい
文部省 (1992) 『にほんごをまなぼう 教師用指導書』ぎょうせい
文部省 (1995) 『ようこそ日本の学校へー日本語指導が必要な外国人児童生徒の
指導資料ー』教育出版
- 山本紀美子他編 (1996) 『子供のための日本語教育』アルク
屋代瑛子／遠藤宏子 (1995) 『ひろこさんのたのしいにほんご1 教師用指導書』
凡人社
- 山田伸子 (1992) 『たのしいこどものにほんご』凡人社

Basic Japanese Sentence Patterns for Foreign Children Studying Japanese for the First Time at Elementary Schools in Japan

YOKOTA Atsuko, KOBAYASHI Yukie & SUZUKI Takae

The last ten years the number of foreign school children studying at Japanese public schools has dramatically increased. Japanese language education for these children has thus become an urgent matter but the education system, contents and methods have not yet been fully discussed. In this paper we have tried to define the basic Japanese sentence patterns necessary for foreign children studying Japanese at elementary schools in Japan for the first time.

Seven textbooks currently on the market for foreign children studying Japanese were investigated. The findings were as follows:

1. Altogether 82 sentence patterns were found.
2. 11 of the 82 sentence patterns were common to all seven textbooks.
3. 34 of the 82 sentence patterns were found in more than four of the textbooks.
4. 34 of the 82 sentence patterns were found in only one textbook.

Based on the results of this investigation, we selected 56 basic sentence patterns that we considered to be a prerequisite for foreign children attending elementary schools in Japan. These were then arranged into a list according to their nature. Finally, by comparing these 56 sentence patterns with "the Japanese education curriculum guideline for elementary school children" published in March 1998, we found that all but two of the sentence patterns of "curriculum guideline" were included in the list.